

平成28年度
登別市デンマーク友好都市
中学生派遣交流事業
研修報告書



目 次

○登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の概要・・・・・・・・・・1

事業概要

研修日程表

派遣生徒・引率者・ホストファミリー名簿

派遣日程表

○研修テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

デンマークの昼食について

登別市立幌別中学校 2年 松本 理加

デンマークの環境と気候について

登別市立鷺別中学校 2年 菅原 美羽

デンマークの建物について

登別市立鷺別中学校 2年 松辻 一葉

デンマークのスポーツについて

登別市立鷺別中学校 2年 京谷 優太朗

デンマークの公共施設について

登別市立西陵中学校 1年 棟方 智華

デンマークの音楽について

登別市立緑陽中学校 1年 鶴田 佳子

デンマークの歴史・建物について

登別市立緑陽中学校 1年 森川 海輝

デンマークのお菓子について

北海道登別明日中等教育学校 2回生 藤代 めい

○感想文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

松本 理加 : 最高の旅行

菅原 美羽 : 忘れられない思い出

松辻 一葉 : デンマークでの思い出

京谷 優太郎 : デンマーク旅行記

棟方 智華 : 最高の一週間

鶴田 佳子 : 世界一幸せな国

森川 海輝 : 初めての体験 ～ホームステイ～

藤代 めい : オリヴィアとイーダとの一週間

○引率者報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

団 長 : 川村 義一 登別市都市整備部水道室水道グループ業務主幹

引率者 : 斎藤 智弥 登別市立西陵中学校教諭

事業概要

○ 事業概要

1 目的

登別市の中学生を友好都市のデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に派遣し、青少年との交流や、日本とは異なる生活や文化の体験を通じ、生徒の豊かな人間性と広い視野を育むとともに、ファボー・ミッドフュン市との交流を推進することを目的とする。

2 訪問国及び都市

デンマーク王国：コペンハーゲン市、オーデンセ市、
ファボー・ミッドフュン市

3 派遣期間

平成 28 年 8 月 12 日（金）～19 日（金）：7 泊 8 日

4 交流内容

表敬訪問：ファボー・ミッドフュン市役所

学校訪問：リングフリー校、ノーアエア校

施設見学：アンデルセン博物館、レゴランド、イーエスコー城、
森の幼稚園、老人ホーム、図書館

5 研修内容

(1)結 団 式：平成 28 年 7 月 1 日（金）

(2)事 前 研 修：平成 28 年 7 月 5 日（火）～8 月 5 日（金）計 10 回
デンマークの概要の学習、研修テーマの決定、英会話、
デンマーク語、登別の紹介・歌・踊りの練習など

〔講 師 等〕

派遣OB：河邊 美鈴〔H26 年度：登別市立西陵中学校〕

小松 萌加〔H27 年度：登別市立幌別中学校〕

西舘 優花〔H27 年度：登別市立鷺別中学校〕

飯尾ひなた〔H27 年度：北海道登別明日中等教育学校〕

櫻井 涼風〔H27 年度：北海道登別明日中等教育学校〕

西村 爽〔H27 年度：北海道登別明日中等教育学校〕

三村 凜〔H27 年度：北海道登別明日中等教育学校〕

菅原里乃彩〔H27 年度：北海道登別明日中等教育学校〕

(3)事 後 研 修：平成 28 年 8 月 26 日（金）～ 9 月 30 日（金）計 6 回
研修成果まとめ、感想文提出、帰国報告会準備

(4)帰国報告会：平成 28 年 10 月 14 日（金）

○ 研修日程表

月 日	内 容		会 場	時 間
07月01日(金)	結団式・第1回保護者説明会		市民会館/小会議室	18:00~19:30
07月05日(火)	事前研修①	デンマークの概要説明、 研修テーマの発表、役割 分担(登別紹介・挨拶)、 アトラクションの内容 決定	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月08日(金)	事前研修②	英語・デンマーク語、 アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月12日(火)	事前研修③	英語・デンマーク語、 アトラクション練習 手紙の書き方	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月15日(金)	事前研修④	英語・デンマーク語、 アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月19日(火)	事前研修⑤	英語・デンマーク語、 アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月22日(金)	事前研修⑥	英語・デンマーク語、 アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月24日(日)	事前研修⑦	派遣団OBとの懇談会	市民会館/視聴覚室	9:30~12:00
07月29日(金)	事前研修⑧	英語・デンマーク語、 アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	9:30~12:00
08月02日(火)	事前研修⑨	アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	9:30~12:00
08月05日(金)	事前研修⑩	最終打ち合わせ、総練習	市民会館/視聴覚室	9:30~12:00
08月08日(月)	市長へ出発挨拶(派遣者)		市役所/市長応接室	10:00~10:30
	第2回保護者説明会(保護者)		市役所/第2委員会室	18:00~19:00
08月12日(金)	デンマークへ出発		市役所/裏駐車場	05:15~
08月19日(金)	デンマークから帰国		市役所/裏駐車場	17:30頃
08月25日(木)	市長へ帰国挨拶		市役所/市長応接室	16:30~17:00
08月26日(金)	事後研修①	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月02日(金)	事後研修②	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月09日(金)	事後研修③	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月16日(金)	事後研修④	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月20日(火)	事後研修⑤	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月30日(金)	事後研修⑥	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
10月14日(金)	帰国報告会		市民会館/大会議室	18:00~19:30

○ 派遣生徒・引率者名簿

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立幌別中学校	2年生	松本 理加
登別市立鷺別中学校	2年生	菅原 美羽
登別市立鷺別中学校	2年生	松辻 一葉
登別市立鷺別中学校	2年生	京谷 優太郎
登別市立西陵中学校	1年生	棟方 智華
登別市立緑陽中学校	1年生	鶴田 佳子
登別市立緑陽中学校	1年生	森川 海輝
北海道登別明日中等教育学校	2回生	藤代 めい

引率者	団 長	登別市都市整備部 水道室水道グループ業務主幹	川村 義一
	引率教諭	登別市立西陵中学校	斎藤 智弥

○ ホストファミリー名簿

派遣者名	ホスト名	性別	家族構成
松本 理加	Anneline Bader アネリーネ・バデル (Stine Niemann スティーンネ・ニーマン)	女	父 モーデン 母 リーセ 弟 ラッセ
菅原 美羽	Emilie Husmann Christensen エミリエ・フスマン・クリステンセン (Frida Ørtved Seholt フリーダ・オルヴェ・セホルト)	女	父 ミケール 母 リーセ 弟 グスタフ
松辻 一葉	Mathilde Lundsgaard マティルデ・ランスゴー	女	父 ハンス 母 アネーデ 妹 カロリーネ
京谷 優太朗	Karla Husted カーラ・フステズ (Freja Hald フライヤ・ハル)	女	父 テュイエ 母 スサネ 姉 マイヤ 弟 オーレ
棟方 智華	Frida Petersen フリーダ・ペーダセン	女	父 ヤコブ 母 シャロデ 妹 リーヴァ
鶴田 佳子	Olivia Jensted オリヴィア・イェンステド (Line Vestergaad Hansen リーネ・ヴェスタゴー・ハンセン)	女	父 エーダム 母 ギデ 兄 マークス
森川 海輝	Svend Kjeldsen スヴェン・キェルセン	男	父 ソーレン 母 リーネ 妹 ローサ 妹 イーダ
藤代 めい	Olivia Mangal オリヴィア・マンガル (Ida Sofie Stage Rasmussen イーダ・ソフィ・ステイ・ラスムセン)	女	父 ミケール 母 マリーエ 弟 ヨハン
团长 川村 義一 引率教諭 斎藤 智弥	Hans Henrik Hansen ハンス・ヘンリク・ハンセン	男	娘 イーダ 息子 マーティン

○ 派遣日程表

月日	行程	内容	食事	宿泊
8/12 (金)	市役所 ⇒ 千歳空港 05:30 06:40	《1日目》 05:15 市役所裏玄関に集合 05:30 市バスで新千歳空港へ 06:40 新千歳空港到着後、搭乗手続き	機内	ホテル
	千歳空港 ⇒ 成田空港 07:50 09:25	07:50 全日空(NH2152便)で成田国際空港へ 09:25 成田国際空港着後、出国手続き		
	成田空港 ⇒ コペンハーゲン 空港 11:40 (現地時間) 16:05	11:40 スカンジナビア航空(SK984便)でコペンハーゲン空港へ (約11時間25分) 16:05 コペンハーゲン空港到着後、入国手続き		
	コペンハーゲン ⇒ コペンハーゲン 空港駅 中央駅	17:34 空港駅から列車(RE1083)でコペンハーゲン中央駅へ 17:48 コペンハーゲン中央駅到着		
	コペンハーゲン ⇒ ホテル 中央駅	17:50 駅からホテルへ徒歩移動 18:00 ホテルチェックイン ※宿泊ホテル: Comfort Hotel Vesterbro		
8/13 (土)	ホテル ⇒ コペンハーゲン 中央駅 09:15	《2日目》 09:00 ホテルチェックアウト コペンハーゲン中央駅へ	ホテル	ホスト
	コペンハーゲン ⇒ オーデンセ駅 中央駅 11:35 10:02	10:02 コペンハーゲン中央駅から列車(IC137)でオーデンセへ 11:35 オーデンセ駅到着	派遣 交流団	
	オーデンセ市内	11:35~15:00 オーデンセ市内 アネさん案内のもとアンデルセン博物館などを見学		
	オーデンセ駅 ⇒ リング駅 15:13 15:29	15:13 オーデンセ駅から列車(RE4649)に乗車、アネさんとともにリングへ向かう 15:29 リング駅着 ホストファミリーと対面し、各家庭へ	ホスト	
8/14 (日) ～ 8/17 (水)	ファボー・ミッドフュン市内	《3日目～6日目》 ・ホストファミリーと過ごす(8/14～8/17) ・イーエスコウ城見学(8/14) ・レゴランド見学(8/15) ・リングフリー校授業参加(8/16・8/17) ・図書館見学、ファボー・ミッドフュン市役所表敬訪問(8/16) ・ノーアエア校訪問(8/17) ・森の幼稚園見学(8/17)、老人ホーム訪問(8/17) ・お別れ会(7学年ホストファミリーと)(8/17) ☆プレゼン、歌、踊りの披露	ホスト	ホスト
8/18 (木)	ホスト宅 ⇒ リング駅 08:30	《7日目》 それぞれホストファミリー宅からリング駅に向かう 08:30 リング駅到着	ホスト	機内
	リング駅 ⇒ オーデンセ駅 08:53 09:13	08:42 ホストファミリーやお世話になった方々に別れを告げ リング駅から列車(RE2820)でオーデンセへ 09:07 オーデンセ駅着	派遣 交流団	
	オーデンセ駅 ⇒ コペンハーゲン 空港駅 09:51 11:05	09:46 列車(IC22)に乗り換え、コペンハーゲン空港駅へ 11:36 コペンハーゲン空港駅到着後、空港まで徒歩移動。 出国手続き。		
	コペンハーゲン ⇒ 成田空港 空港 (日本時間) 15:45 9:35	15:45 スカンジナビア航空(SK983便)で成田空港へ 〔日付変更線〕 (約10時間50分)	機内	
8/19 (金)	成田空港 09:35 (日本時間)	《8日目》 09:35 成田国際空港到着後、入国手続き、税関審査。	派遣 交流団	
	成田空港 ⇒ 羽田空港 11:00 12:10	11:00 成田国際空港から羽田空港までリムジンバスで移動		
	羽田空港 ⇒ 新千歳空港 14:00 15:30	14:00 全日空(NH67便)で新千歳空港へ(荷物受取り) 到着後、市バスに乗車		
	新千歳空港 ⇒ 市役所 16:30 17:40	16:30 市バスで市役所へ 17:40 市役所到着		

研修テーマ

デンマークの昼食について

登別市立幌別中学校 2年生 松本 理加

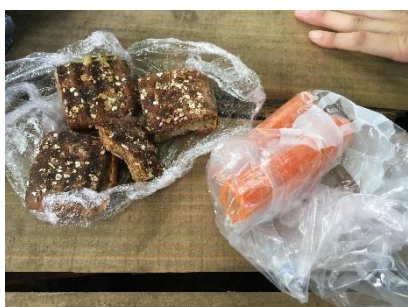
私は、デンマークの昼食について調べました。日本とは違うところがたくさんあったので、紹介します。

日本では、お弁当といえば、おにぎりなどの米とおかずというイメージが強いですが、デンマークでは、ほとんどの人がサンドウィッチとフルーツという簡単なものでした。



デンマークでのお弁当はサンドウィッチが主流です。日本にあるようなものもあれば、初めて見るようなものもありました。

まずは、パンから紹介します。主流なのは「ライ麦パン」です。それは、酸味が強い茶色いパンです。日本人の私には、あまり合わない味でした。他にも、よく日本で見かける食パンなどもありました。



次に、パンにのせるものを紹介します。デンマークは、のせるものがすごく豊富で、きゅうりなどの野菜やイチジクなどの果物、ハム、サラミ、レバーなどの肉類がありました。他にも、サバ、チョコレートもありました。

次は、デンマークのお弁当の中に高い確率で入っているものを紹介します。デンマークのお弁当によく入っているもの、それは…人参です。その人参はゆでても焼いてもいない、生の人参です。食べやすいように、スティック状になっているものもあれば、上と下を切って、皮をむいただけのものもありました。

最後に、デンマークのお弁当には欠かせないフルーツを紹介します。ぶどう、りんご、洋梨、バナナ、プルーンなどがありました。サンドウィッチを食べた後にすぐ食べる人もいれば、レゴランドの帰りのバスなどで食べたり、学校からどこかへ行く途中で歩きながら食べたりしている人もいました。



このように、日本とは全く違うデンマークに、とても興味を持ちました。今後機会があったら、他のことも調べてみたいと思いました。

デンマークの環境と気候について

登別市立鷺別中学校 2 年生 菅原 美羽

私は、デンマークの環境と気候について調べてきました。デンマークは、環境に対する意識が日本とは全然違いました。また、気候も違っていました。まず、環境について紹介したいと思います。

デンマークの街などを見ていると、風力発電機がよくあります。風力発電機は、風を使って発電するので、環境を悪くすることはありません。また、ソーラーパネルもたくさんありました。公共施設、各住宅のほとんどにソーラーパネルがあり、作られている電気の量などをメーターで確認できます。私のホストファミリーの家にもソーラーパネルがあって、家で使っている電気はすべてソーラーパネルで作った電気だそうです。



る装置もありました。

全体を通して、デンマークは環境に対する意識が高く、再生可能エネルギーの利用が多いと思いました。

次に、白夜についてです。白夜とは、夜になっても太陽が沈まない現象のことです。デンマークの白夜は、完全な白夜ではないのですが、夜10時くらいまで明るいため、トランポリンで遊んだり、パーティーをして過ごしました。

このように、デンマークと日本では、環境に対する意識が全然違っていて、日本はもっと意識を高め、再生可能エネルギーの利用を多くするべきだと思います。また、日本では経験できない白夜を経験することができてよかったです。

デンマークの交通手段には、自転車があります。自転車を使う人が多いため、街中の道路には自転車専用道路が整備されていました。また、駅などの大きな施設には、立体駐輪場がありました。歩道に駐輪できるスペースが作られているところもありました。他にも、レンタサイクルや道路の脇には自転車が何台通ったかを数える装置もありました。



デンマークの建物について

登別市立鷺別中学校 2 年生 松辻 一葉

私はデンマークの歴史的な建物について調べてきました。

デンマークの城は、レンガで造られていて、丈夫で美しいです。造られた目的は日本とは違い、戦うためではなく、狩りを行うためや人への贈り物として造られていました。



私たちが行ったイーエスコー城は約 450 年前に建てられました。昔の豪華な貴族の暮らしが城の中では見られ、外国語でしたが、昔の内装についての説明が書かれていました。広い敷地内には木で作られた動物や色とりどりの花などきれいな庭があったり、木で作られた迷路やイーエスコー博物館があったりしました。どこへ行っても

きれいな情景に目をうばわれるばかりでした。

デンマークの街はレンガ造りの建物やカラフルな壁の建物が多かったです。屋根は瓦屋根で上から見ると茶色でいっぱいでした。瓦も日本とは違い、ヨーロッパ風のおしゃれな瓦でした。家の壁は黄色、水色、茶色など様々な色が混ざり合い、見ていて飽きない風景でした。歩道はレンガや石で出来ています。デンマークには自転車専用の歩道が常にあり、日本とは違ってびっくりしました。デンマークの街並みは、昔の美しさを残しながら、現代的な美しさを出しているような気がしました。



デンマークの家は平屋が多く、壁はレンガ造りがほとんどでした。通りを歩いていると、垣根の緑と家の茶色が混ざってとてもきれいでした。



今回デンマークに行って日本との建物の違いを調べ、日本とは建物の材質や造り方がほとんど違うことや新しく知った物事に驚いてばかりでした。これからも自分の知らないことを積極的に学んでいきたいです。

デンマークのスポーツについて

登別市立鷺別中学校 2年生 京谷 優太郎

僕は、デンマークのスポーツについて調べてきました。デンマークの国技は、ハンドボールで、日本の国技は相撲です。



デンマークでは、サッカーやアイスホッケー、セーリングなどが親しまれています。日本では、サッカーや野球が親しまれていて、デンマークは普段、生活していて体験できないモータースポーツが人気です。

ハンドボールは、1897年デンマークが発祥です。サッカーをしていた子供たちが、学校のガラスをたくさん割ってしまい、先生からサッカー禁止令がだされ、手なら足より正確に投げられるだろうと言われて考えだしたのが始まりのスポーツで、外国らしいユニークさに、相撲や武道とは違うおもしろさを感じました。

実際に行ってみて、日本と比べると公園の数が多かったです。学校には、トランポリンが5つあり、サッカーコートが3つありました。ホストファミリーの家には、トランポリンと卓球台がありました。家の近くには、馬術ができる場所があり、近くにたくさんの牧場がありました。デンマークには、色々なスポーツができる場所があることがわかりました。



ホストフレンドが水泳をやっているところを見学しました。すると、音楽がながれてきました。音楽にのって練習をされていて、楽しそうにしていました。その施設には、トレーニングルームもついていました。そこでは、空手をできる場所もあり、おどろきました。日本と交流が深いのだと思いました。



学校で昼休みになると、みんな外で遊んでいました。学校の作りが違い、外に出やすくなっているので、気軽に遊べるのだと考えました。

日本では、運動不足とよく聞きますが、デンマークでは、個性を育てるという教育方針で、色々なことをして個性をのばしていているからスポーツがとても盛んなのだと思いました。

デンマークの公共施設について

登別市立西陵中学校 1 年生 棟方 智華

私は、日本とデンマークとの公共施設の違いを調べて来ました。

デンマークも現在の日本と同じ様に高齢化社会です。ただ、日本と比べて、福祉サービスが充実しています。



デンマークには、高齢者住宅があります。高齢者住宅とは、年金受給者住宅、高齢者向け集合住宅、保護住宅などの施設を指します。この施設の一番の特徴は、無料でサービスを受けられることです。なぜかという、デンマークは消費税が25%と高いため、他にも、医療費、大学までの教育費も税金でまかなわれています。

67才以上の人は全員必ず年金がもらえ、まさに「ゆりかごから墓場まで」が実現した国です。

高齢者住宅の他にも、完全個室老人ホーム、充実したホームヘルプサービス等があり、高い税金の代わりに、子どもからお年寄りまでも安心して生活することを保障されています。

デンマークの学校は、日本の学校に比べ、フリーに感じました。日本の学校のように規律正しくというよりも、一人一人が自分の方法で色々なことを表現していました。例えば、音楽です。リングフリースクールの音楽室には、一通りの楽器がありました。ホストと一緒に学校内を見てまわっていると、男子がドラムをひろうしてくれたり、他の子がピアノを弾いてくれたりしました。そして、みんな一本はギターを持っており、日本よりも音楽と触れあっていると感じました。



他にも、デンマークは日本の学校に比べ、学校全体にアート作品がありました。そして、かべなどにも作品が沢山かざってあり、すごく学校が明るく感じられ、日本の公共施設にも取り入れてほしいと思いました。

最後にデンマークの公共施設は、現地に行く前と行った後で感じたことは、日本と違う形で充実していたことです。他にも、色々な特徴を知りたいと思います。

デンマークの音楽について

登別市立緑陽中学校 1 年生 鶴田 佳子

私は、今回の研修で、デンマークの音楽について調べてきました。

以前、ヨーロッパの国々では小さな子供達（1歳～6歳）が英語で日本の歌を歌っているという記事を目にしましたが、全く想像が付きませんでした。しかし、現地に行って、私のホストファミリーのリーネとオリヴィアに聞いてみると、「歌を歌うだけで日本の昔話が分かる曲が流行っている。」と教えてくれました。また、日本にも馴染みのある「Hakuna Matata」など、ディズニーの曲も流行っているようです。日本の昔話や音楽が広がっていることを知り、嬉しく思いました。私達の年代（10歳～20歳）は主に「Pop Music」が流行っていました。また、私が一番驚いたのは、デンマークの音楽はあまり聴かず、アメリカやイギリスの曲ばかり聴いていたことです。



リングフリー校には、音楽室が4つあり、広さは教室2つ分くらいでした。また、設備が整っていて、キーボードが2台、ギターが6本、ドラムセットが2セットあるなど、日本の小中学校には無いような楽器がたくさんありました。それを見て、デンマークの人々は日頃から音楽と触れ合っているのだと感じました。また、学校にはコピー室があり、コピー機が2台と100枚を超えるコピー用紙が山積みになっていました。この部屋は、生徒も自由に使えて、自分のパソコンから欲しい楽譜をコピーできるそうです。日本の学校にもこのようなサービスがあると、とても便利だと思いました。

そして今一番、年齢を問わずデンマークで流行っているのは、パソコンからスクリーンに見本のダンスを映しながら、POPな曲を流し、それを真似てダンスをすることです。私も挑戦させてもらいました。ダンスの振り付けが激しく、踊り終わった後は汗だくになりましたが、楽しくて何度も踊りました。日本には、このような遊びが無いので、ぜひ学校やパーティで友達と一緒に踊ってみたいと思いました。



デンマークに行って、日本の歌が伝わっていることや日本と違う音楽の感じ方を学び、もっと他の国についても知りたいと思いました。今回学んできたことを今後活かしていきたいです。

デンマークの歴史・建物について

登別市立緑陽中学校 1 年生 森川 海輝

僕は、デンマークの歴史と、デンマーク独特の建物について調べてきました。デンマークの歴史はとても古く、世界では日本に次ぐ、二番目の君主国家です。8～11世紀にかけて「ヴァイキング」として有名なノルマン人が住んでいました。優れた造船と航海技術をもつ武装船団（海賊）が他ヨーロッパ諸国を侵略する反面、貿易を行っていたと言われていました。14世紀後半には、カルマル同盟を結び、ノルウェーやスウェーデンなどを支配下においていました。デンマークの面積は古い時代とは異なり、現在の面積（約43,000平方キロメートル）にいたるには、戦争の勝敗により劇的に変わっていききました。人口は、約570万人で、日本の兵庫県と同じくらいの規模です。2005年には、約541万人だったので、10年間に約30万人増加しています。

次にデンマークの建物の中でも「チボリ公園」と「イーエスコー城」をピックアップして調べてきました。

まずは、「チボリ公園」です。この公園はコペンハーゲン中央駅の隣にあり、総面積82,717平方メートルと、とても大きい遊園地です。アトラクション数は28個もあります。実際におとずれてみて、コンサートを見たり、ローラーコースターに乗ったりして、とても楽しかったです。かつてこの公園は、ウォルト・ディズニーが訪れ、「ディズニーランド」のモデルとなり、童話作家で有名なデンマーク生まれのハンス・クリスチャン・アンデルセンも、何度も公園に足を運び、「童話の構想を練った」とも言われる歴史あるテーマパークとなっています。この公園の良い所はまだたくさんあり、その中でも38か所もあるファーストフードやレストランは、色々なメニューを楽しめる事ができるといった所がとてもうれしいと思います。時間がなくて、僕は見つけられませんでした。



イーエスコー城は、みなさんご存じのとおり、登別マリンパークニクスの「ニクス城」のモデルとなった城です。実際にイーエスコー城を見て「ニクス城とほとんど同じだ!!」と思ったほど、そっくりでした。この城は、1545年に建てられたルネサンス様式の城で、フラン・ブロッケンフースが、妻となったアンネ・ティンフースが当時持っていた荘園に立てたというものです。デンマーク語で「イーエスコー」というのは、「オークの森」という意味になります。この城はオークの丸太を大量

に沼に沈めた上に建てられたことで、「森が一つ消えた」という由来で「イーエスコー」となったという事です。しかし、この丸太が2014年、雨が少なかったので沼の水位が下がり、丸太が空気にふれ、「大木がくさってしまうかもしれない」という状況になってしまいました。そのため、急いで消防士が周囲の湖から水を引き上げてくるという事もありました。



日本とデンマークは、お互いの国の良い所を取り入れていると思いました。例えば、日本だったら、登別マリンパークニクスの「ニクス城」のモデルとしてイーエスコー城を取り入れているし、デンマークでは、すき焼きやお寿司などの和食のお店がコペンハーゲンにあるといった所です。とてもおもしろいので、もっと日本が外国から何を取り入れているのか調べてみたいです。

デンマークのお菓子について

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 藤代 めい

私はデンマークに行ってお菓子について調べて来ました。ホストがたくさん場所につれて行って見せてくれたので、紹介します。

デンマークのお菓子は、日本と比べてたくさんの種類・味があります。特にグミとチョコレートが目立つように思いました。「T w i x (ツイックス)」というチョコレートは、1つずつ売っているものもあれば、19個入りなど、たくさん入っている袋もありました。他にも、日本に売っている「S N I C K E R S (スニッカーズ)」や、私がクラスにお土産に買って行った「M a r s (マース)」というチョコレートなどがありました。これはチョコレートの中にキャラメルが入っているもので、クラスの中には「甘い!」と叫んでいる子や「美味しい!」と言ってくれる子がいました。また、デンマークにも日本と同じでポテトチップスがたくさんありました。「K i m s (キムズ)」という名前のポテトチップスはたくさん種類があり、私が食べたオニオン味はとても美味しかったです。



ある日は、家でホストマザーがパイを作ってくれたりもしました。甘くてすっぱくて、美味しかったです。お皿に取る時にひっくり返して、くずれてしまいましたが、手作りのお菓子を食べさせてくれたホストマザーの気持ちがうれしかったです。

コンビニやショッピングモールでよく見かけたスムージーは、カラフルでとても可愛かったです。カップを買って自分で好きなだけ入れる事ができて、望むなら違う種類のスムージーを一緒に飲めるというシステムに感動しました。美味しくてすぐ飲み終わってしまいました。

最後は「ラクリス」です。デンマークに来たなら食べなきゃと思って食べたのですが、本当に美味しくなかったです。あんなに噛むのに勇気が要るグミは初めてでした。色んな味があり、ホストフレンドのイーダがブルーベリー味を買ってくれましたが、未だに食べ終わっていません。

このように、日本と似ているところもありますが、個性の強いお菓子が多いデンマーク。また行くことがあったら、もっとたくさんのお菓子や飲み物に挑戦したいです



感想文

最高の旅行

登別市立幌別中学校 2 年生 松本 理加

「言葉が通じなくて大丈夫か？」行くまでは、そのことが心配でした。しかしデンマークに着いて、チボリ公園で乗り物に乗るとき、何も分からなかった私たちに「英語を話せますか？」と英語で聞いてくれる人がいました。私たちが「少し話せます。」と答えると、その人は身ぶり手ぶりで私たちにいろいろ教えてくれました。この時初めてデンマークの人の優しさにふれました。

2 日目は、ホストファミリーに会いました。リングゲ駅に着くと、たくさんの人がデンマークの旗を持って、私たちを迎えてくれました。ホストファミリーのお母さんが私を見つけてくれて、「あなたが理加ですか？」と聞いてくれたので、「はい。」と答えると、「一週間よろしくね。」と言ってくれました。家に着いてから、私が英語であいさつをしようとする、私が言い終わるまで待っていてくれました。その後、ホストファミリーのアネリーネたちと家の庭で遊んでいるうちに、不安はだんだんと無くなっていきました。



3 日目のレゴランドでは、ホストファミリーたちと一緒にまわって、ジェットコースターなどを楽しみました。他のホストファミリーとも交流できて、とても楽しかったです。その頃から「日本に帰りたくない。デンマークにもっといたい。」と思うようになりました。



5 日目のお別れパーティーでは、7 学年のみんなと別れるのが惜しく、夜の 9 時半くらいまで遊んでいました。

そして、待っていないのに来てしまう最後の日。ホストファミリーのお父さんが運転する車で駅に向かいました。駅に着いてしばらくたつと電車が来ました。みんな別れたくなくて泣いていました。私たちが電車に乗ると、アネリー

ネやスティーネたちは、泣きながら手を振ってくれました。

飛行機の中では、たくさんの人とのたくさんの思い出を振り返っていました。もう会えないと思うと、とても悲しい気持ちになりましたが、それ以上に楽しい旅行でした。

私にとって、最高の旅行でした。

忘れられない思い出

登別市立鷺別中学校 2年生 菅原 美羽

私は最初、デンマークに行くということに、少し不安がありました。ですが、その不安が無くなるくらい、デンマークの人は優しく接してくれました。

チボリ公園では、チケット売り場を見つけられず、歩きまわってやっと売り場を見つけることができました。チケットを買って、大きなジェットコースターに乗りました。そのジェットコースターは、とてもスリル満点で楽しかったです。



2日目、オーデンセにあるアンデルセン博物館に行きました。アンデルセンが幼少期に住んでいた家、歴史などについて初めて知ることばかりで、さらに興味を持ちました。そのあと、リングゲ駅に向かい、ここではホストファミリーの方々がお迎えをしてくれました。そして、私はホストファミリーの家でホームステイをしました。家に着くと、最初にトランポリンをして遊びました。バック宙や前宙なども軽々とやっけていておどろきました。夜には、ハンモックで遊んだり、ランプカバーに絵を描いたりしながらたくさんお話できて楽しかったです。

レゴランド、イーエスコー城、リングゲフリー校での授業では、自分のホストファミリー以外の人と、最初は緊張したけれど話すことができてよかったです。



そして、お別れパーティで私はよさこいを踊りました。途中からホストも参加してくれて、一緒に踊ることができたのでとてもうれしかったです。そのあともたくさん遊びました。この日は一番たくさんの人たちとふれあえて、とても楽しかったです。

最終日、もう帰らないといけないと思うと、朝から泣いてしまいました。リングゲ駅に着くと、エミリーのお母さんが、電車が来る直前にプレゼントをくれて、うれしくてうれしくて涙が止まりませんでした。電車に乗ってからもずっと手を振っていました。別れるのは悲しかったけれど、またデンマークに来ようと思いました。

最初は不安ばかりだったけれど、デンマークの人たちはみんな優しく、とてもたのしく過ごすことができました。デンマークで忘れられない特別な思い出をつくることができ、とても充実した夏休みとなりました。

デンマークでの思い出

登別市鷺別中学校 2 年生 松辻 一葉

デンマークでの一番の思い出は、ホストファミリーと過ごしたことです。初日、言葉が通じない私に一生懸命家の中の事を教えてくれた時のことは、今でも強く心に残っています。イーエスコー城やレゴランドなどに行った時も、私に伝わるように何度も繰り返し、身振り手振りを使ってゆっくり説明してくれました。他にも朝食や昼食を用意してくれたり、一緒に用意したり、いつでも変わらず優しく接してくれました。ホストファミリーのマチルダの妹も、最初はあまり話せませんでした。慣れるとレゴを見せてくれたり、学校の遊具の所で一緒に遊んだりして仲良くなることができました。とてもうれしかったです。



学校では、他の人のホストファミリーやクラスの人と仲良くなりました。授業は教科書ではなく、パソコンを使うことに驚きました。クラスの人たちとの交流では、班の人達とパソコンを使ってゲームをしました。班の人達は男子3人、女子2人と男子の方が多かったですが、英語のスペルを教えてくれたり、親切でホッとしました。学校案内では、多学年の教室や音楽室などを見てまわりました。音楽室はいくつもあって色々な楽器がありました。案内してくれていたクラスの人がドラムやピアノをひいてくれて、とても楽しかったです。



お別れパーティでは、皆が持って来た食べ物を食べたり、パフォーマンスを披露したりしました。日本のパフォーマンスはデンマークの人に好評でうれしかったです。パーティの後はクラスの人達と写真をとったりしました。とても楽しく、思い出になりました。

最終日、マチルダのお母さんに作ってもらった昼食を持って駅に向かいました。駅で電車を待っている時、私より先にマチルダが泣いているのを見て私も泣いてしまいました。皆が泣きながら、「See you」と言ってくれました。電車に乗って別れる時も最後まで手を振ってくれ、すごくうれしかったです。電車の中で食べた昼食はすごくおいしかったです。

デンマークでホストファミリーと過ごしたことは私の今までの中で一番の思い出です。

デンマーク旅行記

登別市立鷺別中学校2年生 京谷 優太郎

1日目は、緊張していたけれど、チボリ公園で遊んで緊張がやわらぎました。そして、「イヤマ」というお店でデンマークのお菓子を見て色がすごくあざやかでおどろきました。泊まったホテルでは、シャワーの出し方がわからなくて困りました。

2日目は、オーデンセの街を巡りました。風景がいたるところ映画みたいできれいでした。街では、ハトがたくさんいて、川がきれいでした。リングエに行くともた緊張してきました。ホストファミリーに会うと急に実感がわいてきました。



家につくと温かくむかえてくれて安心しました。すると、散歩に行くと言うのでついていくと、たくさんの馬がいて、奥に馬術場があっておどろきました。お土産をわたすととてもよろこんでくれました。特に忍者の物と鬼の置物をととてもよろこんでくれました。ですが、わさびの味がするお菓子をあげてみたら、とても辛そうでした。

3日目は、緊張のせいか早く起きすぎてしまいました。ホストマザーが起きていて、シャワールームを使ってよいかを聞いてみると、最初はわかってくれませんでした。手ぶりをしたりしてみると通じました。イーエスコー城に行くと7学年の生徒がたくさんいました。男の子たちと行動することになり、最初は会話がなかったけど、名前をたずねてみると会話がはずみ楽しかったです。イーエスコー城は大きくて、周りの池に魚がいました。見学が終わり家に帰ると、少したったら車で街の方に行き、7学年の生徒たちと食事会をしました。そこには、色々な物がありとても楽しめました。

4日目は、レゴランドに行きました。学校に行き、そこからバスで向かいました。アトラクションが予想以上に楽しくてお土産を買うのを忘れていました。ホストがアイスを買ってくれて、すごく甘くて美味しかったです。最後に乗ったアームが回転する乗り物は、とても面白くて4回以上乗りました。



5日目は、リングエフリー校の授業参加と市役所訪問・図書館見学をしました。授業では、研修テーマについて調べたりしました。ホストが言っていることがわからなくて混乱してしまいました。市役所では、市長が優しくて、デザートを出してくれました。そして、お土産までもらいました。図書館では、おもしろい衣

装やくつなどたくさんあり楽しかったです。

6日目は、ノーアエア校訪問と幼稚園見学・老人ホーム訪問がありました。ノーアエア校では、ハンバーグを作りました。優しく教えてくれたのでわかりやす



かったです。幼稚園では、元気のある子がたくさんいて、はだしで一緒に遊んで楽しかったです。老人ホームでは、夏のイベントで中庭のキャンピングカーでお茶をしていました。老人を楽しませる工夫がされていました。お別れ会はとてもあっという間でとてもさみしい気持ちになってしまいました。家に帰る車

の中で泣いていました。

そして7・8日目は、お別れでした。朝に家族みんなで写真をとりました。駅ではみんな泣いていて、悲しくなりました。

デンマークに行って、外国に行くことへの不安が無くなりました。またデンマークに行きたいです。

最高の一週間

登別市立西陵中学校 1 年生 棟方 智華

実感のないまま、デンマークに着きました。

初日は、すぐにホテルに荷物を置き、チボリ公園に向かいました。パーク内は、夢の国のようで気持ちが高ぶりすぎて、こけてしまいそうになりました。アトラクションに乗る時に、スタッフの方が「ポケットの中に何も入ってない？」と聞いてくれたのが聞き取れて、やっと外国に来たと少し感じました。

2 日目は、オーデンセのアンデルセン博物館を見てまわりました。アンデルセンの足跡は歩幅が大きく、息がきれました。その後はリング駅に向かいました。リング駅にはホストファミリーがデンマークの旗を持ちながら出迎えてくれました。電車を降りると、1人1人とあくしゅをし、私のホストファミリーのフリーダが笑顔で話しかけてくれて、不安だった気持ちがやわらぎました。私に降りかかった最初の試練は、車のシートベルトが着けられないことです。何度やってもカチャンとなるだけで、ママが運転席から降りて着けてくれました。

3 日目、4 日目はイーエスコー城とレゴランドに行きました。レゴランドの後には、スーパーに連れて行ってもらいました。家に帰ると、ママが庭でハンモックに乗りながら「一緒にどう？」とさそってくれて、フリーダと2人で日が沈むぎりぎりまでガールズトークをして楽しかったです。



最終日まであと3日。やっとみんなと仲良くなり楽しくなってきたので、少し悲しくなりました。

そして、最終日。駅に入ると自然と涙が流れてきました。みんなとハグをして、



ぐしゃぐしゃな顔で電車のドアが閉じるまで手を振り続け、それにホストがこたえてくれたのが、この1週間で一番うれしかったです。

帰りの飛行機では、ご飯とトイレの時しか起きていないくらいずっと寝ていました。私が見ていた夢は、デンマークの思い出でした。

世界一幸せな国

登別市立緑陽中学校 1 年生 鶴田 佳子

朝の 5 時 30 分、市役所裏の駐車場を家族のみんなに見送られながら新千歳空港に向かいました。バスの中では、現地で歌う「さくら、さくら」と「手のひらを太陽に」の 2 曲を友だちと一緒に練習していました。あっという間に空港に着き、11 時間 10 分のフライトを終え、コペンハーゲン空港に着きました。私は、現地に行ってもあまり実感が無かったのですが、チボリ公園でチケットを買うため、係員さんに英語で尋ねて通じた時、「自分は今、外国にいるんだ。」と初めて実感がわきました。

2 日目は、オーデンセのアンデルセン博物館を見に行きました。アンデルセン自身が着用していた服や靴を見られたり、実際に住んでいた家を見たりすることが出来て勉強になりました。



その後、オーデンセからリングゲに向かいました。リングゲ駅にはホストの方々が出てきて、片手に日本の旗を、もう片方にデンマークの旗を持って、私たちを温かく迎えてくれました。家に着くと、みんなが自己紹介をしてくれました。私のホストは皆さんとても優しく、不安だった気持ちが一気に吹き飛んだ気がしました。私のホストのオリヴィアとリーネは音楽やダンスが大好きだという共通点があったのですぐに仲良くなれて、一緒に音楽をかけながら踊りました。特に楽しかったのは、「Harry Potter」の曲を 1 人ずつソプラノ、メゾ、アルトに分かれ、英語で歌ったことです。全てが初めての体験でしたが、オリヴィア達が持ち前の明るさで励ましてくれて、毎日楽しく過ごすことができました。



5 日目に、1 人ずつ「ありがとう。」と言ってプレゼントをくれました。お母さんからは「アンデルセンの本」、お父さんからは「グミ」、お兄さんは「チョコレート」と「ラクリス」でした。この時初めてラクリスを食べた私のリアクションに皆さんとても笑っていました。そしてリーネとオリヴィアからは、イーエスコー城で買ってくれたという「うさぎのぬいぐるみ」をもらいました。どのプレゼントも一生大事にしたいと思います。

最終日、ホストファミリーに駅まで車で送ってもらいました。駅に着くと「もう帰らなければいけないんだ。」と思い悲しくなってきました。ホストの方々を心配させたくないから最後まで絶対泣かないと決めていたのですが、あふれ出した涙を止めることは出来ませんでした。お世話になった皆さん、そしてオリヴィアとリーネに別れを告げて列車に乗り込んで、ホストの方々が見えなくなってもずっと大きく手をふり続けていました。



飛行機では、みんなで写真を見せ合ってデンマークのことを振り返っていました。

私は、これからもデンマークの皆さんのことや皆さんの優しさを忘れません。私は、デンマークは親切で優しさのこもっている人が多い素敵な国だと感じました。これが「世界一幸せな国」と言われている理由なのではないでしょうか。

初めての体験 ～ホームステイ～

登別市立緑陽中学校 1 年生 森川 海輝

僕は、今回の派遣で、たくさんの楽しい思い出が出来ました。ホストファミリーのみんなが優しくて、海に家族みんなで遊びに行き、アイスを食べながら港を歩いたこと、森の幼稚園で、たくさんの子ども達と戦いごっこをしたこと、レゴランドの中にあるバスケットボールで、1回シュートを決めればとても大きなぬいぐるみをGETできるというゲームを1回目でGETできたことなどが、一週間の中で特に思い出に残っています。



ホストファミリーのみんなと海へ行ったのは、5日目。リングフリー校の授業参加後、教会に入り、図書館に行ってファボー・ミッドフュン市役所を表敬訪問してからです。その時、他の派遣団のみんなが「タイガーショップ」に行くと言っていたので、ホストマザーに「僕もタイガーショップに行きたい!」と言ったら、笑顔で「No time」と返事が返ってきました。「えっ!なんで...?」と思いながら1時間、スヴェンとサッカーのTVゲームをしていました。ホストファザーが帰ってくると同時にスヴェンはリュック、ホストマザーは大きなバッグとレジャーシート、ホストファザーは、子供達の防寒着4枚を持ち、「車に乗って!」と言いました。車の中で「海に行くよ。」と教えてくれて、僕にサプライズをしてくれたんだと思い、とてもうれしかったです。海までは家から20分ほど車に乗って着きました。海は、とてもすきとおっていました。海に着いてホストファミリーとカニつりをしました。最初にスヴェンが1匹つり上げて、僕があみですくい上げました。4人でハイタッチをして喜んでいると、僕のつりごおのえさをカニが食べていました。ゆっくり引き上げて、ローサにあみですくってもらいました。ホストマザーが「ごはんだよ!」と4人を呼んでくれました。ごはんはとても太いソーセージ2本とフランスパンとサイダーでした。浜でホストファザーがソーセージを焼いてくれ、とても美味しかったです。食べ終わった後、



またカニつりをしました。僕が1匹、スヴェンも1匹つり上げました。「もうそろそろアイスを食べに行こう。」と言ってくれたので、片付けをし、街にあるアイスショップに行き、2段アイスを買ってもらいました。とても美味しかったです。アイスを食べながら、港を歩きました。その後、スヴェンとローサの3人で、徒競走をしました。たくさん走ったので、汗をかきました。その後、坂をすべりおり、おしりが痛かったけど、とても楽しかったです。

森の幼稚園では、最初はなかなかとけ込めず、1人で遊んでいましたが、幼稚園の子が「サッカーしようよ。」とさそってくれたので、そこから熱が入り、一気にとけ込みました。男の子と剣で戦いごっこをしていると、いつの間にか5人に囲まれて、おそわれました。このままでは、やられてしまいそうだったので、背中に1つ、うでに2つたてを着けて、5対1で戦いました。結果は当然負けてしまいました。最後に5人の中でも1番強暴だった子と写真をとりました。本当にかわいかったです。



レゴランドで、残り30分の時に、トイレに行く途中、バスケットのアトラクションがありました。家族づれのお父さんがチャレンジしていました。シュートを打ってはずし、子供と奥さんに「Oh, no!」と言われていました。「僕もやってみようかな。」と思い、4Dkkを払ってやってみました。シュパッと入りました。店員さんが「Super!」と大きなぬいぐるみをくれました。外したデンマークのお父さんは「すごいね!」という顔をして、僕にほほえんでくれたので、僕も笑って、みんなの所に戻りました。派遣団とデンマークの7学年の友達も「すごいね!Wow!」と言って、ぬいぐるみをさわってにこにこしていました。

今回の派遣を通して、逆に、リングフリー校の7学年生に登別に来てほしいと思いました。そして、7学年生が、今回派遣された僕たちの家に泊まるのです。僕の家にもスヴェンが来てほしいなあ!

オリヴィアとイーダとの一週間

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 藤代 めい

私は、デンマークでの1週間の旅で色んな方にお世話になりました。また、出発前の事前研修、事後研修でも、市役所の方にお世話になったり、部活を休んで迷惑をかけたりしました。そして、担任の酒井先生にもものすごくお世話になりました。私の旅は、そのたくさんの方々のおかげでこんなにも楽しいものになったと思っています。

最初にリング駅に到着した時、電車の窓からデンマークの旗を持った同い年くらいの子どもたちが見えて、すごくテンションが上がったのを覚えています。みんなと握手した後、ホストのオリヴィアとフレンドのイーダに声をかけてもらいました。2人ともとても優しく安心して安心しました。



デンマークは、とても街並みのきれいな国です。みんな「最初にそれを見て実感が湧いてきた。」と言っていました。私は何を見ても実感など湧かず、最初から最後まで夢のような心地でした。だからホームシックも全くありませんでした。



私がオリヴィアやイーダと一緒にいて楽しいと感じた瞬間は、みんなでふざけている時です。出会った初日から、リング駅で列車に乗るまで当たり前のように一緒にいてくれました。その間、何回も冗談を言われ、言い返しました。そういった時間が、私の一番の思い出です。もちろん、イーエスコー城やレゴランド、タイガーショップもすごく楽しかったです。

最後の日、お別れの朝、オリヴィアとイーダとオリヴィアのマザーが、「帰らないで、ここに住んでもいいんだよ。」と言って、すごく別れを惜しんでくれたのをよく覚えています。駅に着いて、オリヴィアが泣いているのを見て、私もすぐに泣いてしまいました。本当に帰りたくなかったです。

リングフリー校のお友達とは今も連絡を取り合っていますが、また会いたいという気持ちが本当に強いです。また会うためにも、お世話になった人への感謝の気持ちとこれらの経験を忘れずに、勉強を一生懸命したいと思います。

引率者報告書

平成28年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業を終えて

団長 登別市都市整備部水道室水道グループ業務主幹 川村 義一

【派遣日程の経過報告】

8月12日（金）・・・1日目

5時15分までに全員集合した。多くの見送りの方々に出発のあいさつを行い、定刻どおり5時30分に市役所を出発した。新千歳空港までのバスの中では朝御飯やおやつを食べている団員やおしゃべりをしている団員もいたが、緊張もあるのか比較的静かな時間であった。新千歳空港に到着すると、今回の交流事業に関する旅券やホテルの手配をしてくれた日本旅行(株)の柴山氏から必要書類を受け取った。

その後団員たちとともに保安検査を無事通過し、成田までの飛行機に搭乗した。機内では団員たちが固まって座ることができた。成田空港には定刻どおり到着し、乗り継ぎ便の保安検査を受けた。その後、団員全員で日本円からデンマーククローネに両替を行ったが、私の順番でデンマーククローネが不足したため、別の両替所へ案内された。不足の理由を尋ねると一度に100万円近いデンマーククローネへの両替を予想していなかったとのこと。この間、斉藤先生には団員たちと一緒に待機してもらった。無事両替が済んだところで、コペンハーゲン行きの飛行機へ搭乗する31番ゲート付近まで全員で移動し、15分ほど自由時間とした。



集合時間を11時としたところ、団員たちはしっかりと集合してくれた。

デンマーク行きの飛行機に乗り込み、12時4分に離陸した。これから約11時間25分の長旅になるので、団員たちにはチボリ公園に備えて、機内ではしっかり寝ておくように伝えた。機内では、団員たちは自席で見ることができる映画やゲームを楽しんでいたようだ。騒ぎ回ることなく、静かに過ごしていた。

私としては機内の冷房が効きすぎていたので、ブランケットを羽織って約11時間過ごした。帰りの便ではカーディガンやパーカーを手荷物に入れておくことにしよう。時計をみると日本時間の22時過ぎ、残りのフライト時間は50分程度である。そろそろ飛行機を降りる準備しなければならない。これまでの間、一睡もすることができなかった。

定刻どおり、コペンハーゲン空港到着後、アシストのミドリさんと合流し、現地時間の17時30分過ぎにホテルに到着した。チェックインを済ませ、18時15分までにチボリ公園へ行く準備を整えるよう伝えた。

全員が集合したらチボリ公園まで歩いて向かった。チボリ公園では、全員の入場券を共通経費で購入した。金曜日であったため、一人110クローネと平日よりも10クローネ高かった。あいにくの雨であったが、団員たちはフリーパスを買ったものと乗り物のチケットを購入したものに別れ、それぞれがチボリ公園を楽しんでいたようだ。



帰りに近くのスーパーで団員たちは日本へのお土産を買った後、セブンイレブンで軽い夕食を購入し、ホテルに戻った。

ホテルのロビーで明日の朝食時間を7時30分として、それぞれの部屋に別れた。

8月13日(土)・・・2日目

時差ボケのせいなのか、ホテルでは十分に眠れないまま起床し、身支度を整えていたところ、7時少し前に団員たちが私たちの部屋を訪れ、自分たちは準備が整っているの、朝食時間を早めて欲しいとのこと。全員集合した後、予定よりも早めに朝食をとることにした。皆の様子を聞いたら、



団員も熟睡できたわけではなく、眠ったり、起きたりを繰り返していたようだ。

朝食後、荷物をまとめて8時50分に一階ホテルロビーへ集まるように伝えた。集合時間に全員がいることを確認した後、ミドリさんとともにコペンハーゲン中央駅に向かった。オーデンセ行きの電車は予約席をとっていて、出発まで時間が

あったので、駅周辺の市庁舎等の見学をミドリさん、斎藤先生、団員たちで行ってもらい、私は駅で荷物の見張りをしていた。

10時過ぎの電車に乗り込み、自分たちの指定席に座って、オーデンセまで移動した。

1時間30分後にオーデンセに到着すると、アネさんとシャーロットさんが出迎えてくれて、アンデルセンの足跡を辿るように、記念館や町の中を案内してくれた。

昼食はアネさんがカフェに案内してくれて、パンケーキと炭酸飲料を食べた。オーデンセ駅の周辺はアンデルセンに関わるものがとても多く、特徴あるヨーロッパの街並みを見ながら、デンマークにいることを実感した。



15時少し前にオーデンセ駅に到着し、アネさんにサポートしてもらい電車に乗った。

予定よりも早い電車に乗ったので、リング駅到着時刻が早まったが、すでにリズィさんをはじめ、大勢のホストファミリーが集まってきていて、熱烈な歓迎を受けた。

団員たちはホストファミリーとともにそれぞれ出発し、私と斎藤先生はホームステイ先のハンス宅に向かった。

私と斎藤先生それぞれに部屋を与えてくれて、ホームステイ中、遠慮をせずに家の中や庭など、好きなところで過ごして良いと言ってくれた。

夕食はハンスの友人たちのホームパーティーに招かれ、豚肉や鶏肉料理、サラダなどを頂いた。デンマークの夕食はとても美味しかった。

帰宅後は、前日の寝不足の影響で早めに休んだ。

8月14日（日）・・・3日目

前日、早めに眠ったので、午前5時過ぎに目覚めた。シャワーを浴びて午前8時30分頃に朝食を頂いた。

ハンスは朝から卵料理、ビーンズ、食パン、ヌードルを作ってくれて朝からお腹が一杯になった。

午前9時30分になると、アネさんが迎えに来てくれて、イーエスコー城に向かった。

午前10時少し前に現地に到着し、団員たちの到着を待った。団員たちにホームステイ先の印象を尋ねると、すでに馴染んでいて楽しいと思っている団員がいる一方で、英語が思ったよりも通じなくて戸惑っている団員がいた。しかし、イーエスコー城でホームステイ先の子供たちと楽しく施設見学をしていて、特に困ったことはなかったようだ。

イーエスコー城を訪問する前の私のイメージは、「城のみの場所」だと思っていたが、実際には城を中心としながらも、子供たち用の遊具、迷路、自動車やバイクの博物館もあり、ここだけで十分1日楽しめる施設であることがわかった。

イーエスコー城の中は登別マリパークと違い、水族館はなく、城に関わるものが多数展示されていた。昼食の時間が近づくと、城が見える木陰でホストファミリーが用意してくれたお弁当を食べた。派遣前の研修で「ニンジン一本」がお



弁当の場合があると聞いていたが、おかずの一部であり、サンドイッチやリンゴなどもお弁当に入っていた。

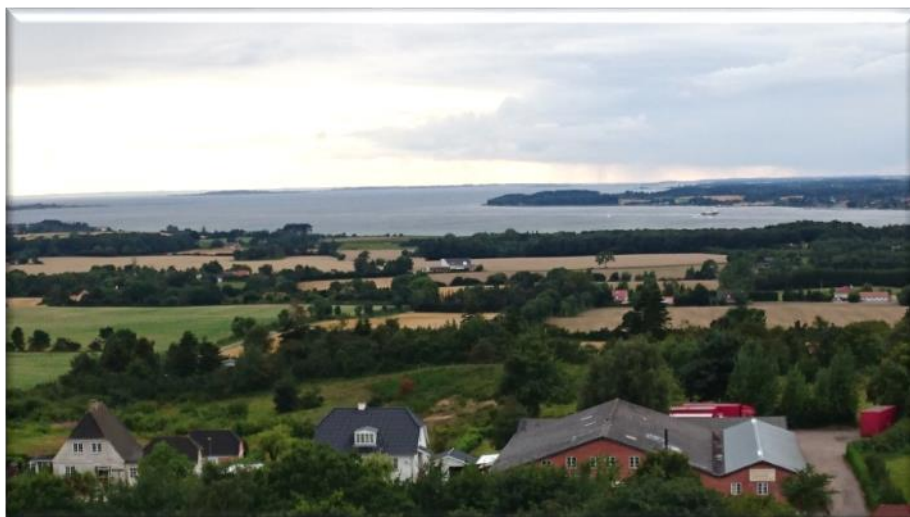
イーエスコー城の前でホストファミリーの子供たちと写真を取り、13時55分に公園の入口を待ち合

わせとした。

その後、団員たちはホストファミリーとともに戻って行った。私と斎藤先生は、ハンス宅へ戻った後、ハンスのコレクションである1980年代のレコードを聞き、15時過ぎにリング南方の町：スベンボーへ連れて行ってもらった。そこでは、遊覧船に乗せてもらい、着いた先のハンバーガーショップで夕食を食べた。こちらのハンバーガーは食べきれないほど大きい。全部食べようとすると胸焼けしそうになるので、完食していない。ホストファミリーのイーダやマーティンも完食できていなかった。

夕食を終え、
帰りに教会の頂
上まで登り、素
敵な景色を眺め
た。

ハンス宅に到着
後、私と斉藤先
生は、ハンス、
イーダ、マーテ
ィンに日本から
のお土産を渡し
た。ハンス一家



はスカウトに参加しているので、スカウトの話や2年前にホームステイした「美鈴さん」の話をしてくれた。イーダからお土産のお礼に明日のスカウトでの集会で使えるようにスカウトのスカーフとワッペンをもらった。明日はこれを付けて行くことにする。

その後、Googlemapのストリートビューを使い、登別市役所や西陵中学校の場所を示し、登別市の話をした。

明日、ハンスは午前6時30分に出勤するとのことだったので、22時30分に各自部屋に戻った。

8月15日(月)・・・4日目

今日は「レゴランド」に行く日である。7時過ぎにイーダが朝食を用意してくれたので、美味しく頂いて、7時45分にイーダ、マーティンとともにリングフリー校へ徒歩で向かった。学校へ向かっている途中、出会う生徒たちは自転車で通う生徒がほとんどだった。マーティンに普段の通学手段を尋ねると、いつもは自転車で通学しているとのこと。徒歩でも10分程度で学校に到着した。

学校へ到着すると、シャーロットさんとリングフリー校の先生がいてくれて、デンマーク協会の望月さんとも合流した。

ほどなく、団員たちがホストファミリーの子供たちとともに現れたので、体調などの確認を行った。午前8時過ぎにバスに乗り、レゴランドに向かった。

レゴランドでは、シャーロットさんが生徒たちを4つのグループに分けて、必ず集団行動する事を確認した。

15時にレゴランドの入口に集合する事を伝えた後、それぞれのグループでの行動に移った。

団員たちはアトラクションやショッピングを7学年の生徒たちと楽しんでいただろう。

レゴランドを15時過ぎに出発し、リングフリー校へ向かった。到着後、明日はいよいよ英語プレゼンテーションと歌の披露があることとお土産担当者の確認を行い、解散した。



ハンズ宅へ戻った後、昨日イーダからもらったスカーフを首につけて、会場まで車で移動し、スカウトの集会に参加した。ハンズ一家は長年、スカウトに所属していて、彼はそのリーダーの1人だった。

ハンズはスカウト仲間に私と斉藤先生を紹介してくれた。みんなも快く受け入れてくれた。バーベキューを食べながら、これまでのスカウト活動についての話を聞いた。

その後、ハンズのギターを伴奏にして、参加者全員でデンマークの歌を歌った。すっかりスカウトの仲間入りをしたような気分になった。

帰宅後は、イーダ、マーティンとそれぞれの名前の由来を話して、時間を過ごした。



8月16日(火)・・・5日目

いつもどおり午前5時30分に起床した。天気は晴れそうな感じだ。

今日はいよいよ事前研修で何度も練習をしてきた英語のプレゼンテーションと歌を披露する日だ。団員たちが緊張せずに今までの成果を出せることを願った。

午前7時45分頃、イーダ、マーティンとともにリングフリー校へ向かった。午前8時に学校へ到着すると、朝の集会に参加した。4曲の歌を歌った後、英語のプレゼンテーションと「さくらさくら」と「手のひらを太陽に」の歌を披露した。団員たちは事前研修での成果を十分出せたようだ。

すべてのパフォーマンス終了後には、会場から大きな拍手をもらった。

この後、団員たちは7学年教室で授業に参加した。授業では英語でのいくつかの質問に答えたり、今回の研修課題についてパソコンを使いながら、いっしょに調べたりしていた。



その間、私と斎藤先生はアネさんに

学校内を案内してもらい、授業見学と施設見学を行った。古い学校だと言っていたが、玄関やキッチンなどを新築すること。

体育館にはトランポリンなどがあり、日常的にこのような施設を利用できることはとても恵まれていると思う。

日本の学校と違い、リングフリー校では、2時間目が終わる10時から30分間のブレイクタイムがあり、そこで昼食をとることになる。私と斎藤先生は職員室で昼食をご馳走になった。パンや果物、飲み物を準備してくれた。

お昼過ぎには7学年の生徒たちと教会、図書館を訪れ、施設内を見学した。13時頃、ファボーミッドフュン市庁舎に到着し、大きな会議室に入り、小笠原市長の親書とお土産を渡した。

ファボーミッドフュン市長から訪問者全員にケーキと飲み物が振る舞われ、さらに私たち日本からの訪問者にはお土産も手渡された。



表敬訪問終了後には、団員たちはホストファミリー宅へそれぞれ向かった。

私と斎藤先生はハンス宅へ戻り、明日のお別れ会で私たちが日本食を作って持って行くことになったので、そのメニューの相談をする事にした。渡航前に準備をしていたわけではないので、スーパーなどで食材や調味料を手に入れることは

できないかもしれない中でのメニュー選定だった。斎藤先生と相談した結果、日本らしい食べ物として、「肉じゃが」と「みそ汁」を作ることにした。

「みそ汁」については、斎藤先生が日本から持ってきた「あさげ」を10食分作ることにした。「肉じゃが」については、ハンスが仕事から帰ってきた後、必要な食材や調味料を伝え、それを調達するためにオーデンセの大きなショッピングセンターに連れて行ってくれた。

一部足りない食材もあったが、豚肉、じゃがいも、ニンジン、玉ねぎ、醤油を購入し、帰宅した。

夕食はハンスが魚介のホイル焼きとパスタを作ってくれた。さすがにハンスは料理が上手である。スカウトでの経験が十分に活かしているようだ。

夕食後、ハンスは私が水道グループの職員であることから、デンマークの浄水場と下水道処理施設に連れて行ってくれた。この時すでに午後8時30分を過ぎていた。ハンスにはとても感謝しなければならない。

ハンス宅に戻って来たら、午後10時近くだったが、明日は調理をしている時間がないので、斎藤先生とともに「肉じゃが」を作ることにした。キッチンを借りて、なんとかそれなりの味になった。あとは、リングエの人たちの口に合うかどうかだが、これで一安心である。

23時を回っていたので、眠ることにした。

8月17日（水）・・・6日目

昨夜が遅かったせいか、6時近くまで眠ってしまった。朝はシャワーが込み合うので、できるだけ早めに準備をしなければならない。今朝もイーダとマーティンが朝食の準備をしてくれた。彼らにはとても感謝している。

中学生でここまでしっかりしているのは、ハンスの教育のおかげであろう。午前7時45分頃、リングエフリー校に向かった。

朝礼に参加した後、団員たちは7学年のクラスで授業に参加した。私と斎藤先生は6学年の地理の授業の見学をした。日本の学校とは違い、4人ずつのグループに分かれて着席し、授業を受けるスタイルだ。

9時30分過ぎ、ノーアエア校に行き7学年の生徒及びノーアエア校の生徒たちとともに団員たちは調理実習を行った。ハンバーグを作り、パンといっしょに食べる内容だった。料理が出来上がったら、生徒たちといっしょに外で食事をとった。

食後にデンマークの言葉遊びを行っていたようだが、説明を受けていないので、団員たちも詳細はわからないようだ。

12時30分過ぎに、徒歩で「森の幼稚園」を目指した。13時頃に到着すると、

園長さんは来週日本に来るセシリエさんのお母さんらしい。デンマークではいろんな人にお世話になったので、セシリエさんが困っていたら、手助けをする必要があるだろう。私と斎藤先生を含めた団員たちは幼稚園児たちと園庭で2時間ほど遊んだ。言葉が通じないので、日本の子供と遊ぶよりも注意が必要だ。ただ、どの国の子供たちも走り回って遊ぶことが好きだということがわかった。

この日のリングの気温は高く、20℃を越えていたと思う。北極に近いのか、太陽の日差しが強く感じられた。デンマークに来て以来、初めて肌寒く感じなかった。その後、老人ホームに向かう途中、街のお店でアネさんにアイスクリームをご馳走になった。団員たちは幼稚園児といっしょに遊んでいたのも、ありがたいエネルギーチャージとなったようだ。老人ホームでは、日本のそれとは違う内容のものもあった。一つは入居者の個室の広さである。それぞれの部屋にキッチンがあり、バスルームとトイレも完備されているので、20畳程度の広さがあるように感じられた。また、中庭には、キャンピングワゴンがあり、入居者が夏を感じられるように配慮しているのもポイントだ。例年のように歌を歌うことを求められなかったのも、16時過ぎには解散となった。

私と斎藤先生はマーティンとともに帰宅後、前日から準備をしていた料理を持ってハンスの車で18時開催のお別れ会に向かった。



会場に到着し、持ってきた料理といっしょに「肉じゃが」と「味噌汁」の札をテーブルに並べた。お別れ会では、各ホストファミリーが料理を持ち寄って食べるパーティー形式で行われた。

男の子の団員はホストファミリーとともに席につき、女の子の団員は6人がまとまって一つのテーブルについた。

パーティーが始まる前に前日に打ち合わせた躍りをハンス、斎藤先生、私の3人で行い、会場全員を巻き込んで行った。ハンス提案の踊りは、うまくいった。団員たちはそれぞれにホストファミリーと話したり、遊んだりして過ごしていた。

食後にはホールでデンマーク協会のリズィさんから団員たちにTシャツがプレゼントされ、代わりに7学年の生徒たちに日本からプレゼントを渡した。プレゼン

ト交換の後、事前研修から準備をしていた個人パフォーマンス(海輝くんの空手、一葉さんの剣道、佳子さんと美羽さんのよさこい)を行い、その後は会場全員で鬼躍りを踊った。

団員たちも皆、満足のようにだった。



パフォーマンスの後、ケーキとコーヒーが振る舞われ、団員たちはホストファミリーと別れるのを惜しんで、お互いに写真を撮影していた。

パーティーが終わると、明日はいよいよ帰国の日になるので、パスポートなどの搭乗に必要なものを準備して荷物をまとめておくよう指示し、解散した。

私と斎藤先生はハンス宅に戻り、ハンス家族と最後の夜を過ごした。ハンスからはアコースティックギターの伴奏による歌のプレゼントがあり、斎藤先生もアコースティックギターの伴奏によるビートルズの歌とイーグルスの歌をプレゼントした。また、イーダから私と斎藤先生の名前を日本語でアート風に仕上げたものをそれぞれプレゼントされた。日本語は斎藤先生がイーダに教えたもので、イーダなりに私達が喜びそうなものを考えてくれたようだ。この一週間ハンス家族には感謝しかない。本当にありがとう。

私は荷物をまとめる準備があったので、24時頃に部屋に戻った。斎藤先生は午前3時頃までハンスと話をしていただろう。

8月18日(木)～19日(金)・・・7日目、8日目

いよいよ帰国の日を迎えた。わずか5日間ではあったが、ハンス家族には大変お世話になったし、とても楽しい時間を過ごすことができた。

午前8時5分、リング駅までハンスの車で送ってもらった。

午前8時30分、ホストファミリー、デンマーク協会のリズィさんなどたくさんの方が見送りに来てくれた。

団員たちはホストファミリーとの別れを惜しんで、泣いている団員もいた。彼らがホストファミリーに十分に受け入れられ、交流してきたからであろう。今回の交流団の目的の一つは、達成出来たと思った。



午前8時53分、オーデンセ行きの電車に乗った。ホストファミリーとの別れ際、団員たちは皆、涙ぐんでいた。

オーデンセ駅に到着すると、アシストのミドリさんが出迎えてくれた。

オーデンセ駅から

コペンハーゲン空港までの間、サポートしてくれることになっている。

午前9時50分頃の電車に乗り、コペンハーゲン中央駅に午前11時頃到着した。その後、コペンハーゲン空港行きの電車には午前11時40分に乗り込んだ。午前12時過ぎにコペンハーゲン空港に到着し、ミドリさんのサポートを受けながら、保安検査を通過した。成田行きの飛行機搭乗までに時間があるので、お土産

を買うなどの自由時間とし、15時ちょうどにパスポートチェックを行う場所の前で待ち合わせとした。

団員全員が集めた後、パスポート検査を受けて搭乗



口に向かった。機内での飲み物を各自準備させ、機内に乗り込むと、飛行機は10分ほど遅れて離陸した。

30分ほど経過すると日本への入国手続きに必要な書類の記入を行った。16時30分頃から機内のドリンクサービスがあった。

団員たちは、行きの飛行機と同様に映画やゲームを楽しんでいるようだ。私の時計はまだデンマーク時間であるため、しばらくデンマーク時間での内容になる。午後 5 時 30 分過ぎ、機内食が配られた。サラダ、チーズ、チキンのトマトソース、ライス、ケーキ、クラッカーだ。ライスを食べるのが出来たのは久しぶりぶりだ。昨日のお別れ会でもハンスが御飯を炊いてくれたが、より日本のライスに近いものは機内食だった。だんだん日本に帰って来ている感じがしてきた。午後 10 時 30 分を過ぎると団員たちは眠りについてた。

(ここから日本時間)私は眠ることが出来ずに朝を向かえた。

午前 7 時 30 分過ぎに朝食が出された。

デンマークでよく目にしたライ麦パンとフリッター、ヨーグルトにジュースである。

午前 9 時 20 分過ぎに成田空港に無事着陸した。

手荷物を受け取って、税関を通過後、デンマーククローネを円に両替した。

成田空港から羽田空港までのリムジンバスチケットを 10 人分購入し、午前 10 時 50 分発のリムジンバスに乗った。羽田空港までは 1 時間 30 分ほどかかったもので、団員たちは眠っていた。疲れが出たのだろう。もう少しなので、なんとか無事で帰りたい。

羽田空港では皆で「うどん」を食べた。日本に帰ってきたと実感した。

団員たちは、疲れがたまっているところに重たい手荷物を抱えての移動だったが、なんとか新千歳空港行きの飛行機に乗ることが出来た。機内でも疲れはてて眠ってしまう団員がいた。彼らいわく、1 時間 30 分程度のフライトはあっという間の出来事だとのこと。デンマークから東京までの 12 時間に比べればそのとおりだと思う。

新千歳空港に到着後、市バスに乗り込み、市役所まで移動した。到着式では家族の方や学校関係者、ちょうど終業時刻と重なったこともあり、多くの職員に出迎えをしていただいた。皆さん、ありがとうございます。

デンマーク派遣を終えて

登別市立西陵中学校教諭 齋藤 智弥

今回、デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の引率者となることが決まった際、私自身大きく関心があったことは、デンマークの教育についてでした。その中でも私が担当している教科である英語教育に関しては、特に興味がありました。デンマークの母国語はデンマーク語ですが、事前に調べた際に、2015年度のEF EPI 英語能力指数(非英語圏、世界70ヶ国、約91万人のデータを元に作られた、世界最大の成人の英語能力ランキング)では3位(日本は30位)ということでした。つまり、英語を母国語としない国で、世界で最も英語が話せる国の1つということがわかりました。

実際にデンマークに行って感じたことは、英語が話せるとコミュニケーション等にほとんど支障がないということでした。コペンハーゲンの空港や街の中、オーデンセ、ホームステイをしたリングゲのホストファミリー、リングゲフリー校の人々など、皆さんは私たちと話す際には英語、普段はデンマーク語と使い分けていました。デンマークでは日本と同じように小学生の段階から英語教育が始まるのですが、ホストファミリーの13歳の男の子でさえ、私と英語でコミュニケーションをとることができました。デンマーク語は文字、発音ともに英語と似たものが多々あると感じましたが、それに加えて日々の生活でアメリカやイギリスの番組を視聴したり、SNS等でも英語を目にする機会、使用する機会も多いということを知りました。そういった環境も彼らの英語を話す力を高めているのだろうと感じました。また、見学したリングゲフリー校の授業では、英語だけではなく、ほぼ全ての授業で4人1組のグループを作り、教科書やその他の教材を用いての討論、発表活動といったアウトプットが主体の授業でした。



滞在中、このような環境の中で、交流団の生徒達はデンマーク語だけではなく、英語で積極的にコミュニケーションをとる姿がとても印象的でした。実際の場面で英語を使うという経験はなかなか得られるものではありません。デンマーク滞在中に、この言語体験を通して学んだ様々なことを、それぞれが豊かな人生を築くための礎にして欲しいと思います。

今回の派遣に際し、交流団に貴重な機会と大きな励ましのお言葉をくださった小笠原春一市長、武田博教育長をはじめ、事前・事後研修において、多大な準備と指導をしてくださった登別市総務部企画調整グループの皆様にも、深く感謝申し上げます。